

I. 経緯

1. 調査に至る経緯

埼玉県大井町は、首都圏30km圏内の県西南部に位置し、畑作を中心とする純農村地帯であったが、昭和30年代後半からのいわゆる地域開発ブームの渦中に、本町もさらされ、スプロール化が進み、建て売り住宅のラッシュが見られるようになった。人口と世帯数は昭和40年前後から急激に増加し、40年から50年の間に人口で約22,000人、世帯数で約 6,600戸が増加した。50年代には、小規模かつ蚕食的な開発が主流をなしていった。当然、これらの開発の波は埋蔵文化財に影響を与え、行政としてその対応が求められるようになった。発掘調査としての対応は昭和52年以降からはじまり、昭和54年度からは、第一次5ヶ年計画で国庫及び県費補助による「大井町東部遺跡群発掘調査事業」として実施し、本年は第二次5ヶ年計画の2年次にあたる。

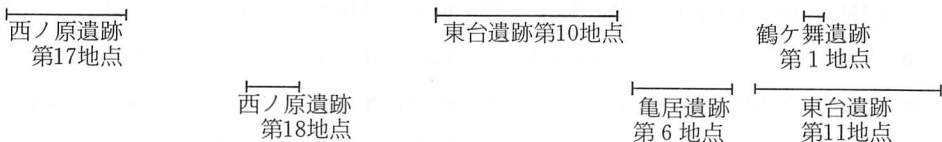
東部遺跡群は、文字どおり町の東部地域に集中している遺跡群の総称で、現在40ヶ所の埋蔵文化財包蔵地を確認している。昭和60年度の開発行為の中で、埋蔵文化財包蔵地内にかかり、影響を及ぼしたものは以下の6件である。

No.	遺 跡 名	所 在 地	原因者	面積	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第17地点	大井町大字苗間字西ノ原135-3	北沢 明	165m ²	昭和60年 5月13日～5月22日
2	西ノ原遺跡第18地点	〃 〃 西ノ原141-2	神木 繁信	569m ²	〃 7月26日～8月5日
3	東 台遺跡第10地点	〃 大字大井字東台670-1	野溝 繁樹	896m ²	〃 10月1日～11月25日 昭和61年
4	亀 居遺跡第6地点	〃 大字亀久保字亀居1,000	関根 政江	914m ²	〃 12月3日～1月13日
5	鶴ヶ舞遺跡第1地点	〃 大字亀久保字鶴ヶ舞67-3	土屋みどり	499m ²	昭和61年 1月28日～1月29日
6	東 台遺跡第11地点	〃 大字大井字東台673	大隅 康雄	660m ²	〃 1月14日～3月20日

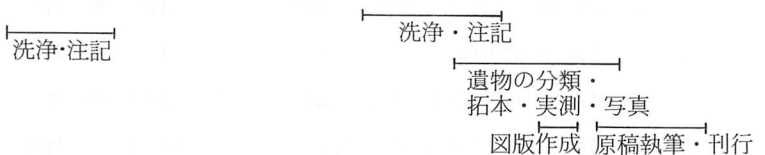
2. 調査事業の経緯

5月13日からの西ノ原遺跡第17地点の発掘調査を皮切りに、調査報告書刊行までの調査事業の経緯は下のとおりである。

現場作業

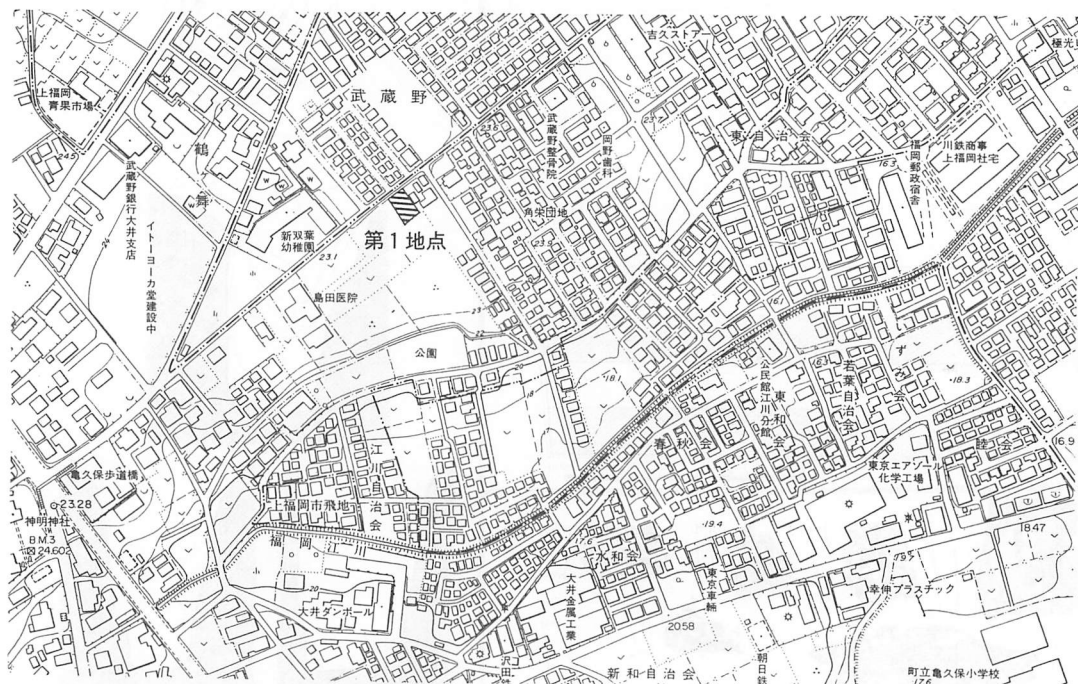


整理作業



1985年 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1986年 1 2 3

Ⅶ 鶴ヶ舞遺跡第1地点



第45図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/5000)

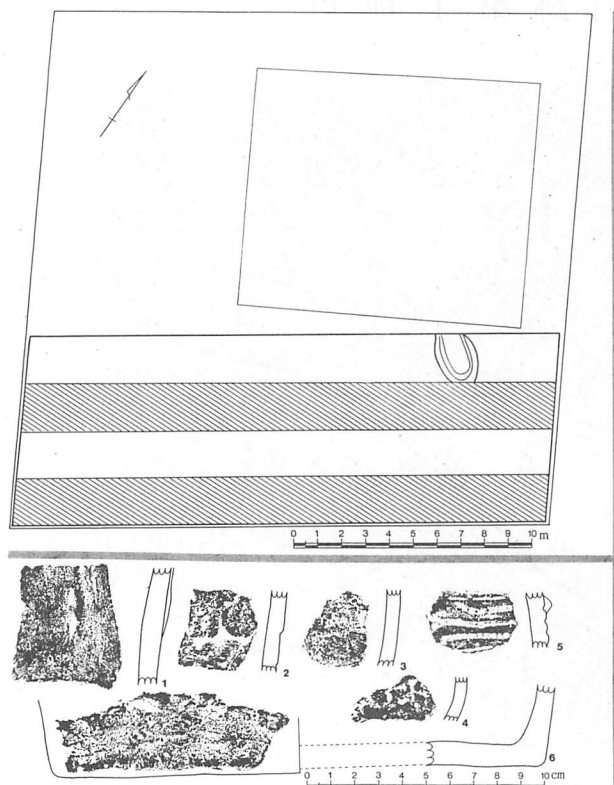
1. 遺跡の立地と環境 (第45図)

鶴ヶ舞遺跡は、福岡江川を南側にのぞむ南向きの台地縁辺部に位置する。標高23m。谷との比高差は5m40cmを測る。周辺はすべて宅地・商店街でわずかに今回の調査区近辺のみに畑地が残っている程度である。地形的には非常に良好な遺跡だが、市街地と変わったのは早く、発掘調査そのものは今回が初めての鍬入れとなった。また畑の表面には遺物の散布は皆無に等しく調査が待たれるところでもあった。本遺跡の一角になると思われるが、第1地点よりもやや北東へ行った所で蓋付蔵骨器が耕作の折に発見されている。遺跡の時期等については正確なことは判明しないが、平安時代は相違なく存在すると思われる。

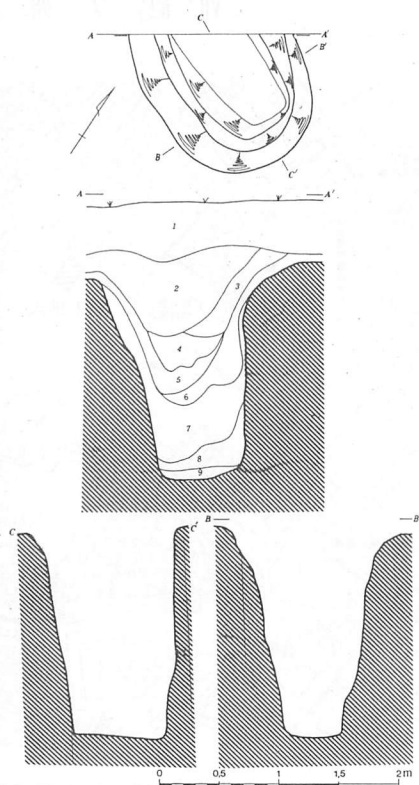
2. 調査の概要と経過

鶴ヶ舞遺跡の調査は今回が初めてである。80mほどで崖に達する地点で、表面採集では遺物は得られなかった。調査区の北半分は既存施設の基礎があり調査不可能なため、南側に4本とトレンチを設定し調査を行なった。表土を55cm除去するとソフトローム面に達した。表土中からは、わずかに7点の土器が出土したのみであった。Aトレンチの東側から黒色の落ち込みを確認したが既存施設があったため完掘はできなかった。この土壌以外に検出された遺構はなかった。

第46図 鶴ヶ舞遺跡第1地点 遺構分布図 (1/300)



第48図 鶴ヶ舞遺跡第1地点 出土遺物 (1/3)

第47図 鶴ヶ舞遺跡第1地点
1号土坑 (1/50)

3. 遺 構

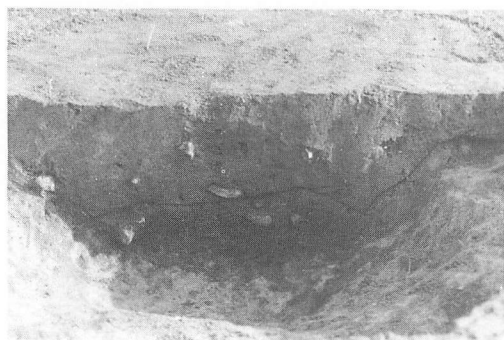
(1) 1号土坑 (第47図)

形態と規模：開口部プランは長楕円形で、底部は長方形を呈すると思われる。開口部の短径は130cm、底面の短径は50cmで坑底は平坦で、壁は急傾斜に立ちあがる。主軸方位 N—63°—W、現地表面からの深さ235cm、ローム面からの深さ180cm。

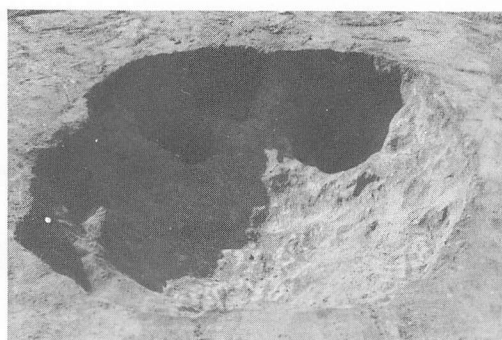
覆土：2～4層は黒褐色土層。5層・6層は暗褐色でローム粒子を含んでいる。7層は軟弱なソフトロームを多く含む。8層と9層の間に帯状に細砂混りの黒色土を含んでいる。9層は粘性が強いロームブロックを多く含む黄褐色土。全体的に軟質な土である。4層中より縄文時代中期の土器1片が出土している。本例と同様な土坑が東台遺跡第10地点より検出され、覆土中より縄文土器が出土している。いずれも覆土中位から破片で出土した。また層位・規模も近似しているところから同一用途の土坑と思われる。

4. 出土遺物 (第48図)

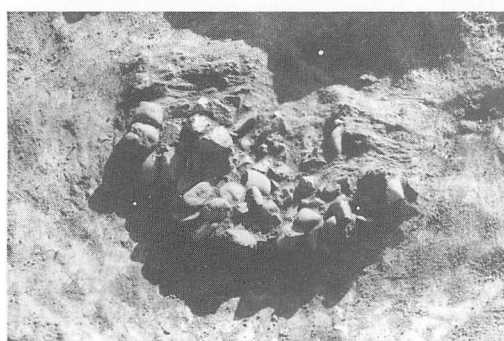
1～6まですべて阿玉台式に比定されるもので、1は1号土坑の覆土最上層部より出土。他は、トレンチのソフトローム面上より出土。いずれも雲母末を多く含んでいるのが特徴。



亀居遺跡第6地点 1号集石土壇(断面)



亀居遺跡第6地点 3号集石土壇



亀居遺跡第6地点 4号集石土壇



亀居遺跡第6地点 4号集石土壇



亀居遺跡第6地点 号土壇



亀居遺跡第6地点 作業風景



鶴ヶ舞遺跡第1地点 作業風景



鶴ヶ舞遺跡第1地点 1号土壇